平成 23 年 9 月発行

諏訪湖クラブニュース NO. 12

もくじ
「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会　P1（パンフレット同封）
自然エネルギー信州ネット　2～3
高木会員の八ヶ岳紀行　4～5
理事会報告　6

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会の企画書

1. 目的

エネルギーの地産地消による地域の自立を目指す勉強会として、鎌仲ひとみ監督の「ミツバチの羽音と地球の回転」を取り上げ、広く一般の人にも公開し、エネルギー問題を考えるきっかけとしたい。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大地震に伴う福島原子力発電所の事故はその後も全国的に多くの影響を出し続けています。以前から原発に関する問題を提起し続けてきた鎌仲ひとみ監督の上記題名のドキュメントが昨年完成し、その上映が各地で自主的に行われております。諏訪湖クラブでも奥原会員から諏訪湖クラブでの自主上映を昨年末に要望されていました。そこで、企画書を作成、諏訪市教育委員会、茅野市教育委員会、下諏訪町教育委員会、諏訪市商工会議所に後援を申請し、受理されましたので、下記要領で上映会を開催するべく準備を進めています。会員の皆様のご協力とご参加をお願いします。一般向けのチラシも同封しますので、ご参照下さい。

2. 上映する映画の内容　：以下に鎌仲監督の当映画作成の意図を転載しました。

前作では原子力産業の最前線で生きる六ヶ所村の人々を取材しました。
どのようなエネルギーを選択するのか、今、私たちは問われています。地球温暖化という国境を越えた環境破壊が進む時代に生きる私たちは、私たち自身の生活が環境破壊につながるというジレンマに直面しています。このジレンマを解く道はないのか、と改めて問いかけたいのです。構造的な環境破壊を根本から見直し、新しいエネルギーの作り方、使い方を探りながら社会のシステムそのものをシフトしていかなければ未来がないことを多くの人が理解し始めています。ではどのようなエネルギーに、社会に、どうやってシフトしていけばいいのでしょうか？私はそのヒントがスウェーデンにあるのではないか、と注目してみました。

スウェーデンは脱原発を国民投票で決め、２０２０年までに石油にも依存しない社会づくりをめざしています。実はエネルギーをシフトする背景には民主主義や情報の透明性、そして人権意識の高さがあることが見えてきました。スウェーデンは炭酸ガスを削減しながらゆるやかながらも経済成長を続け、質の高い福祉を実現しています。日本とスウェーデンの違いはいったいどこにあるのでしょうか？

（日本では）目下、山口県上関町で新たな原子力発電所の建設計画が進められています（現在凍結中）。この原発は瀬戸内海の入り口にある美しい湾を埋め立てて建設されます。この原発予定地の真向かいに位置する祝島の人々は建設に２６年間、反対してきました。しかし、島民の思いとはうらはらに計画は進んでいます。埋め立て予定地、田ノ浦は海底から淡水が湧く多様な生物の楽園です。祝島の漁師にとっても最高の漁場です。祝島の人々の暮らしが持続可能でなければ、私たち自身もまた、持続可能ではありません。

「持続可能」という言葉は実に多様な意味を含んでいます。その中でも私が最も大切だと考えるのは自然の法則に逆らわないということです。今回の作品で表現し、伝えたいと思っているのは普段私たちが見過ごしている自然循環の大きな力です。それを敵にするのではなく、共に生きるという感覚です。この映画は旅するカメラの記録です。まったくかけ離れた場所で生きる人間の営みを一本の映画にすることで私たちがこれからどうしたらいいのか、見えてくるのではないかと期待しています。社会をシフトする人間のエネルギーやネットワークが生れるためのメディアになりたいと思っています。

3. 上映期日、会場、会費等

上映期日：　平成23年10月1日（土）9:30～16:30（午前、午後の２回上映）
上映会場：　諏訪市駅前市民会館にて（事前通知で託児も行う予定）
会　　費：一般１人1,000円、高校生１人　500円、中学生以下は無料

4. 収支残余金について

全額「東日本震災」に対する義援金として寄付の予定

お願い　事前の参加者勧誘、当日の会場整理、受付等、会員の皆様のご協力をしていただける方募集中です。
そして何より **チケット購入と映画鑑賞をお願いします！**　連絡は宮坂平馬会員（miyasaka@nn.iij4u.or.jp）まで。

追記：松本「マザー・アース信州」（主催者山口さん）により翌 10 月 2 日午後に同様の企画があり、そちらでは鎌仲監督の講演も行われます。問い合わせ先のメールアドレスは（motherearth888@live.jp）です。

平成 23 年 9 月発行

自然エネルギー信州ネットについて

会長　沖野 外輝夫

新聞報道などですでにご存じの方も多いかと思いますが、平成 23 年 7 月 31 日、諏訪東京理科大学で「自然エネルギー信州ネット」が設立されました。設立の経緯についてはニュースでもすでにお伝えしてきていますが、その設立趣意書と同ネットの事業イメージなど設立総会当日の資料の一部をお知らせします。諏訪湖クラブは団体として参加し、沖野が同ネットの理事となりました。個人会員は準会員となりますが、諏訪湖クラブからも複数の方々がすでに参加しております。会員の募集は随時行っていますので、ご希望の方は沖野までお知らせ下さい（okinosw@po2.lcv.ne.jp)。

８月１９日に第１回理事会（準会員出席、発言可）が長野県庁で行われました。以後各地域での地域協議会の設立が行われますが、諏訪地域でもその準備を始めることになり、諏訪地域関係の理事、監事の話し合いの結果、下記要領で最初の準備会を行うことになりました。ご興味のある会員の方々のご参加を期待しています。

<自然エネルギー信州ネット諏訪(仮称)設立準備会>

開催期日 ： 平成２３年９月１５日　13:30～２時間程度

開催場所 ： 信州大学山地水環境教育研究センター（４階教室）

参 加 者 ： 信州ネット理事（沖野外輝夫、葦木美咲）監事（天野輝芳)、MEGAMI MUSIC のメンバー、諏訪湖クラブのメンバー、前回の勉強会に出席のメンバー、諏訪地方事務所環境課等を予定しています。

以下に自然エネルギー信州ネット設立総会資料の一部（趣意書、事業概要等）を転載しておきます。

（資料１）

信州自然エネルギー協議会設立趣意書

現在、私たちの消費しているエネルギーのほとんどが、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出する化石燃料に依存しています。

また、東日本大震災等に起因する原子力発電所の安全性への不安から、脱原発による再生可能エネルギーへの転換が求められています。

自然環境豊かな信州には、太陽光、小水力、バイオマス等の自然エネルギーの資源にも恵まれています。

そこで、信州の豊かな地域の資源を活用した自然エネルギーの普及を図るため、全県的な推進組織として「信州自然エネルギー協議会（仮称）」を市民団体、企業、大学及び行政等が協働で設立する。

加えて、これまで蓄積された様々な知見を活かしながら、市民・企業・金融・行政の協働、地域エネルギー開発の支援、地域エネルギー事業への市民参加等を核とした「新しい公共」の取組を展開していきます。

本協議会が中心となって、長野県内において、地域資源を活用した地域協働による自然エネルギーの普及を推進することにより、自立した持続可能な地域づくりを実現するとともに、その成果を他地域へ広く発信していくことを目指します。

よって、これらの趣旨をご理解のうえ、多くの皆様のご賛同、ご支援をお願い申し上げます。

平成２３年７月３１日

発起人代表
社団法人長野県環境保全協会
会 長　茅 野　實

（資料2.）

信州自然エネルギー協議会における事業イメージ

1．　県レベルの協議会（信州ネット）の役割、活動

地域資源を活用した地域協働による自然エネルギーの普及及び自然エネルギーを活用した持続可能な地域づくりに向けて、下記の活動をすすめるために、あらゆる主体の連携と対話を図りながら、総合的な調整を行なう。

（具体的な役割）

（1）　長野県の各地の市民参加型・市民出資型の自然エネルギー事業モデル（地域イノベーション事業）構築支援

- 自然エネルギー普及に関する将来像、ビジョンの検討
- 自然エネルギーに関する情報の共有・情報提供
- 自然エネルギーの事業構築に必要な学びの場の提供
- 自然エネルギーに取り組む地域間支援、連携の促進、ネットワーク化
- 自然エネルギー事業実施にあたっての技術的支援
- 行政に対する施策・制度の提案、行政等との連携による財政的支援

→地域で実績のある事業を県下各地に拡大

→新しい自然エネルギービジネスモデルの検討及びモデルプロジェクトの地域で実証

2．　長野県レベルにおける自然エネルギーの普及の仕組みの検討・導入等

- 県内の自然エネルギー事業を支援する枠組みの構築
  （例：市民、企業、金融機関等と連携したファンドづくり）
- 長野県のエネルギーの地産地消を促す事業モデルの付加価値の仕組みづくり
  （例：グリーンエネルギーの証書化のサポート、認定の仕組みづくりなど）
- 自然エネルギーを活用した持続可能な地域づくりの在り方検討

3．　地域協議会の役割、活動

地域協議会は、地域のあらゆる主体の連携と対話を図りながら、地域の実践活動の情報交換、地域の自然エネルギー資源を生かした自然エネルギー普及モデル事業を検討し、事業の実施を支援する。

（1）　地域協議会の範囲

自然エネルギーの事業化を円滑に進めるために最も効果的な地理的範囲をそれぞれの協議会で設定（市町村レベル、複数市町村レベル、地方事務所レベル、または複数の地方事務所の管轄管内をまたがるレベルいずれも可）

（2）　想定される地域協議会の種類

①　特定事業実施型の協議会

協議会立ち上げ当初から、対象とするエネルギーを始めとする事業モデルがある程度想定され、当該事業モデルを立ち上げるために必要な関係者により構成されるもの。

②　ネットワーク型の協議会

当該地域に複数の自然エネルギーの実施、または検討している団体、者がいるが、特定の事業の実施まで検討が進んでいない地域において、当初は情報共有、地域関係者のネットワーク化から始めて、当該地域における事業モデルの検討を開始するもの。

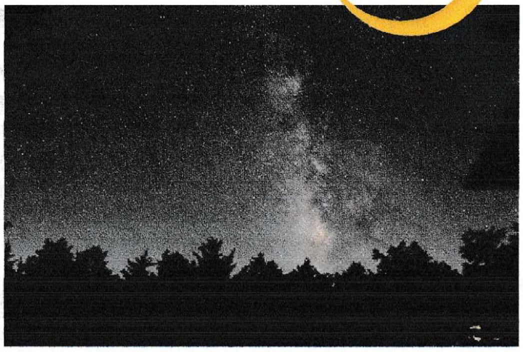
（3）　具体的な役割

- 地域で自然エネルギーに取り組む、又は関心のある者、　市民団体、企業、大学、行政等の情報交換、発掘、ネットワーク化の場
- 地域の自然エネルギーポテンシャルの調査
- 地域におけるエネルギーの地産地消、持続可能な地域づくりのビジョンの共有
- 県協議会との連携による地域の資源、人材、技術を生かした自然エネルギー事業のモデルの検討
- 地域で自然エネルギー導入を進めるための中間支援（情報提供、技術支援）
- 地域で自然エネルギー導入への中立的な立場からの助言、アドバイス

（4）　地域協議会の立ち上げについて

- 市民参加型の自然エネルギー事業を立ち上げることを目的にする地域（市町村レベルを最小単位とする）の複数以上の関係者の集まりであれば、原則地域協議会として位置付けることが可能。
- 今後の進め方
  1）県地方事務所単位で、説明会を実施
  2）発起人及び県協議会事務局が連携して地域協議会参加者を募集
  3）地域協議会の準備会開催
  4）地域協議会の構成団体・構成員を会員として県協議会へ連絡
- また、地域における地域協議会の立ち上げ、円滑な活動展開の側方支援をしていくため、地方事務所単位での情報交換の場や連絡会など、幅広い関係者の参加や公平な形での協議会運営を進めていくための枠組みも検討していく。

高見石 天の川



大蔵先生は、模型を使って受講生に説明してくれました。月が地球に近いと、月の影で太陽の光が全く当たらない地域ができて、皆既日食となります。一方で月の軌道が地球から遠い時には、太陽の縁の光が届いて、細いリングのように見える金環日食になるそうです。博物館は月曜定休が多いのですが、来年の五月二一日は多くの施設で観察会が行われるのでは?と期待されます。この日は日本のあちこちで、金環日食が話題をさらうでしょう。

ここで大蔵先生は、受講者に工作も用意してくれました。日食メガネづくりです。フィルムはドイツ製、厚紙に枠を切ってフィルムを貼り付けました。かつては、黒い下敷きやフロッピーディスクのシート、カメラフィルムなどが使われていましたが、網膜ヤケドなどの危険性がありますので、ご注意ください。

日食メガネと一緒に、太陽の映像を撮れるようにと、ピンホールの模様づくりもしました。使ったパンチは、手回しオルゴールの譜面を作るものを応用しました。一つ一つの穴に、金環の太陽が映し出されるそうです。受講者にとって、工作ができることは興味を上乗せできます。

また、料理用のお玉をTシャツ上に投影することでも日食が観測でき、木漏れ日も欠けた太陽の形をして映ります。次回日本で金環日食が見られるのは、二〇三〇年六月一日の北海道になるそうです。

三番目の宇宙の神秘は、来年六月六日水曜日の金星による太陽面通過です。太陽→金星→地球の順になります。午前七時十三分から午後一時十七分までの長丁場で観測ができます。その後の太陽面通過は、二一一七年一二月一一日（一〇五年後）となりますので、ご興味の方は今回もお見逃しなく。

最後は八月一四日火曜日の金星食です。地球→月→金星です。午前二時四四分ごろ明るい金星が細い月に隠れ、午前三時三〇分ごろ再び姿を現します（時刻は場所によって若干違います）。ペルセウス座流星群も一緒に観測できるかもしれません。以上四つの宇宙の神秘が、やって来ますのでお楽しみに。

今回の森の学校では、残念ながら星空の観測はできませんでしたが、大蔵先生のご好意により、これまでの高見石からの写真を掲載させていただきます。大蔵先生ありがとうございました。

みなさん、白駒池駐車場よりゆっくり徒歩一時間で、「星空とランプの高見石小屋」が待っています。今回小生は、食糧を余計に持って九〇キロで、家内は缶ビールを欲張って六〇キロで自宅を出発しました。それでも十分に歩けました。下山するときは、身も心もすっかり軽くなりました。どうぞ八ヶ岳自然と森の学校へお出かけください。

寄稿 八ヶ岳自然と森の学校だより

高木 保夫

高見石 北の空

星に一徹—一九八〇年二月号の月刊天文ガイドの表紙は、原田茂さんが飾っています。高見石小屋を背に、プレゼントされた望遠鏡を磨いています。「高見石はこんなに星がきれいなのに、望遠鏡がないのはもったいない」と泊り客たちが、筒を設計・制作・鏡を磨いてくださったものがはじまりで、いまは三百五十ミリの反射望遠鏡が、高見石の標高二三〇〇メートルから星空をにらんでいます。三代目になります。

森の学校が始まったのは一九八九年、高見石小屋での星座観測会は翌年からの名物講座で、講師も長野市立博物館の大蔵満学芸員がずっと務めてくださっています。八月二〇日・二一日の森の学校は、あいにくの天候に備えて、大蔵先生は天文シヨーの講義内容をパワーポイントにして用意され、同僚の是枝敦子専門員が、プロジェクターを担ぎ上げ、アシスタントをしてくださいました。今年の十二月から来年の八月にかけて、天文学上でめずらしいビックな現象が重なり、宇宙の神秘が観測できそうです。

まずは、本年十二月一〇日土曜日の皆既月食からスタートします。月食は一年間に、〇か一から二回、まれに三回起き、そのうち皆既月食とは、太陽→地球→月が一直線に並び、月が地球の本影にすっぽり隠れることによって起きます。今回は、十二月一〇日の午後九時四五分に欠け始め、午後十一時六分に皆既食になり、午後十一時五八分に皆既食が終わります。そして午前一時十八分にもとの満月にもどります。月食が起こるのは必ず満月であり、年間十二回から十三回も満月はありますが、日本で月食が見られるのは、限られてきます。ましてや皆既月食になると次回は二〇一四年になるそうです。今回は日本・オーストラリアが観測可能な地域です。晴れるといいですね。ところで皆既の月は、なぜ赤いのでしょうか。これは、太陽の光が地球の大気を通過する時に、青い光が飛び散り、赤い光が残るからだそうで、日の出や夕日と同じ原理とのことでした。

続いては金環日食、来年の五月二一日の月曜日に起こります。太陽→月→地球の順に並びます。今回は、静岡・横浜・東京からがよく見えます。みなさんは、「皆既日食と金環日食の違いがどうして起こるのか」ご存知でしょうか。

事務局からのお知らせ

- 毎月第 3 日曜日の理事会（役員会）へは、ご希望の方はどなたでも、自由にご参加いただけます。
  9 月は 18 日（日）10:00～12:00、会場は NPO 法人スマートレイク事務所（諏訪市清水 2-1-4　諏訪信用金庫　清水町支店横）の予定です。興味のある方は是非ご参加下さい。
- また、役員および有志の会員間ではメールを通じて連絡や情報のやり取りをしております。こちらへも希望のある方はご自由に参加いただいております。登録申し込みは随時受け付けておりますので、事務局までメール（e-suwa-info@lake.gr.jp）にてどうぞ！
- ニュースへの投稿や、ご意見ご希望がございましたら、どうぞお寄せください。
  メール：e-suwa-info@lake.gr.jp　　FAX：0266-57-5019　　<宛先：諏訪湖クラブニュース係>

理事会報告

第 39 回

日　時：H23　6 月 19 日（日）　午前 10 時～12 時
出席者：沖野、長﨑、金子、上島、宮坂、北原、宮原、高木
内　容：
1．5 月総会に関連する事項
　総会にて承認済の日本赤十字への災害義捐金 10 万円送付報告　他
2．諏訪地域エネルギー協議会について
3．長野県自然エネルギー信州ネット準備会報告
4．チャリティウオーク報告
5．諏訪湖浄化部会経過報告
6．ミツバチの羽音と地球の回転」自主上映会について（担当者を決める）
・9 月に行いたい
・諏訪市駅前市民会館を会場にしたい
・クラブからは沖野、奥原、宮坂が実行委員会へ加わる。鴨志田理事の協力も仰ぐ
7．その他報告（お祝い会）
・沖野会長の祝賀会会計報告。事務経費についてはクラブ支出を報告、了承

第 40 回

日　時：H23　7 月 17 日（日）　午前 10 時～12 時
出席者：沖野、金子、長﨑、宮坂、高木
内　容：
1．諏訪湖浄化促進イベントについて
・9 月 11 日（日）のふれあいまつり、信大と一緒にイケチョウガイのブースを予定
2．諏訪地域エネルギー協議会について
・7 月 26 日（火）９時半諏訪合庁で学習会
・7 月 31 日（日）１０時半諏訪東京理科大で自然エネルギー信州ネットの発会
3．「ミツバチの羽音と地球の回転」自主上映会について
・10 月 1 日（土）諏訪市駅前市民会館をで実施
・後援依頼中
・事前上映会８月８日（月）６時半、丸高蔵にて
・実行委員募集中

企画・編集・発行　　諏訪湖クラブ事務局
〒392-0017　諏訪市城南二丁目 2362
TEL／FAX　0266-58-0490　　E-mail　e-suwa-info@lake.gr.jp
諏訪湖クラブニュース　No. 12